

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 3 号)



1 平成7年3月9日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 3名

19番 川名 正二	20番 生稲 陞
23番 石井 昌治	

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 神子 純一	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 会長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第3号)

平成7年3月9日午前10時開議

日程第1 議案第9号 平成6年度館山市一般会計補正予算(第4号)  
の専決処分の承認について

議案第10号 館山市議会議員及び館山市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第11号 館山市行政組織条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第12号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第13号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第14号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の制定について

議案第15号 館山市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第16号 職員団体のための職員の行為の制限の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第2 議案第17号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

議案第18号 財産の取得について

議案第19号 財産の無償譲渡について

議案第20号 財産の無償譲渡について

議案第21号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第22号 館山市乳幼児医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について

議案第23号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一

日程第3

- 部を改正する条例の制定について
- 議案第24号 館山市農村協同館の設置及び管理に関する条例  
を廃止する条例の制定について
- 議案第25号 館山市豊房育成牧場の設置及び管理に関する条  
例を廃止する条例の制定について
- 議案第26号 館山市企業職員の給与の種類及び基準を定める  
条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第27号 市道路線の認定及び廃止について
- 議案第28号 平成6年度館山市一般会計補正予算（第5号）
- 議案第29号 平成6年度館山市国民健康保険特別会計補正予  
算（第3号）
- 議案第30号 平成6年度館山市老人保健特別会計補正予算  
（第1号）
- 議案第31号 平成6年度館山市下水道事業特別会計補正予算  
（第4号）
- 議案第32号 平成6年度館山市水道事業特別会計補正予算  
（第3号）

開 議 午前10時01分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数22名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、議案第9号平成6年度館山市一般会計補正予算（第4号）の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

#### 議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第2、議案第10号乃至議案第27号の各議案を一括して議題といたします。

#### 質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 議案第11号、館山市行政組織条例等の一部改正についてお尋ねをいたします。

市行政の機構を手直ししようとするものでありますが、従来と大きく異なった点は、環境の保護や公害防止にかかわる仕事はこれまで民生部の所管とされていたものを、これを経済部の所管に変えようとする点であります。環境及び公害問題の位置づけについてどのようにお考えなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第12号、館山市附属機関設置条例の一部改正に関してお尋ねをいたします。豊房牧場の廃止に伴い、豊房育成牧場運営委員会を廃止しようとする条例改正であります。これに関連いたしまして、豊房育成牧場の土地は地元各区のいわゆる区有地と聞いているところでありますが、ここはまた作名ダムの水源域にもなっているところであります。豊房育成牧場廃止後の跡地の利用についてどのような検討がされているのでありましょくか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第18号、ウエルネスリゾートパーク構想に基づく土地取得に関する議案についてお尋ねをいたします。いわゆるリゾート開発は民間の活力を中心として行うべきもので、国、県などの公は、規制緩和を進め、道路や水資源などの社会資本の整備を図り、これら開発の条件整備を受け持つものとされたのがいわゆる総合保養地域整備法、リゾート法の原則でございました。そういうものとして、館山の各種リゾート開発計画もあったところであります。ところが、実際は各種民間リゾート計画は事実上バブル崩壊とともに挫折しました。こうした中で、ウエルネス計画についても、それだけが単独でということは考えにくいことではないでしょうか。改めて全体のリゾート開発計画との関連の中で再検討されるべきものではないかと思うのでありますが、いかがお考えでしょうか。そうした視点はないのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、リゾート開発計画全体との兼ね合いも必要であるとすれば、このウエルネス事業について、急いで事業を進める必要が今あるのかどうか。現在の財政状況等を勘案し、ペースダウンも必要になるのではないかと思うのですが、今後の計画の進め方についてどのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案第27号、市道路線1233号線、1234号線の認定に関連してお尋ねをいたします。コミュニティセンターに至る市道1032号線を廃止して、これにかわって市道1233号線及び1234号線を認定しようとのことでありますが、説明書によりますと、国道 410号バイパスに1233号線も1234号線も接続することになるわけであります。国道 410号バイパスは、内房線の線路を立体的にまたぐことになっております。この跨線橋の位置と市道1233号線、1234号線の起点との関係はどのようなになるものか、御説明をいただきたいと思います。

また、1233号線の終点部分は国道 128号線と国道 410号線の交差する地点に極めて近いところにあるわけでありますが、大変変則的な交差点になることが懸念されますが、この点についてどのように検討されておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、議案第11号に関します御質問でございますが、環境、公害部門の位置づけにつきましては、福祉部門の充実により、現在の民生部と経済部の所管事務量のバランスを考慮し、経済部門に位置づけたものでございます。

次に、議案第12号に関します豊房育成牧場の跡地利用計画についての御質問でございますが、この土地につきましては、地権者の代表で組織しております豊房育成牧場跡地利用促進協議会にて協議中と承っております。

次に、議案第18号、ウエルネスリゾートパーク構想についての御質問でございますが、リゾートに対します潜在需要は依然として高いものがございま



すので、スポーツ施設等の拡充を柱に、引き続き推進してまいりたいと考えております。今後の計画の進め方につきましては、社会経済情勢や財政事情を勘案しながら実現化を図ってまいりたいと考えております。

次に、議案第27号に関します第1点目、国道410号バイパスの接続についての御質問でございますが、両市道の起点部分については平面交差となります。

第2点目、市道1233号線と国道128号線との交差点の御質問でございますが、国道410号バイパス完成後、交通安全対策上、閉鎖する予定でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 行政組織条例の一部改正でありますけれども、福祉部門の充実ということから事務量がふえたために、民生部から押し出される形で環境問題が経済部に移管になったということなのですが、公害問題あるいは環境問題の位置づけということについて、歴史的には非常に有名な話で、公害対策基本法が制定されて、その公害対策基本法の中では、経済発展との調和条項——公害対策というのは経済発展との調和を図った中で行われるのが原則である、こういうことがうたわれて、そのために経済発展優先で、結果的には公害対策が非常におくれてしまったという歴史的な経験があるわけですね。その後、公害対策基本法は、国民の健康の保護、生活環境の保全を目的とするということで、いわゆる経済発展調和条項を削除したわけですね。そういういきさつから考えると、今回のことは、経済部の所管になるということではあるのですが、経済部のいわゆる地域振興なり経済の発展という、そういう事業との関連で、歴史的に経済発展との調和の範囲内で環境保護はやればいいのかという、こういう規制が削除されたいきさつ、これをやはり受けとめなきゃいけないのじゃないかなと思うのですが、その点についてどういうふうにお考えになれるか。

それから、豊房育成牧場の問題でありますけれども、跡地利用についてはまだ協議中で、具体的な内容はまだ決まっていないようでありますから、そ

それはそれでわかりますが、地元にとっても、こうしたところがどういう形で利用されていくのか、有効な利用方法は何なのかということは大変重要なことだろうと思うのです。しかしながら同時に、市民全体からしますと、水源域という問題もあるわけで、水源域にかかわることありますので、その辺からの利用について、土地の有効利用についてはやはり一定のルールを考えなきゃいけないのじゃないかなと思うのですが、この辺はどういうふうにお考えになっておられるか。

それから、議案第18号でありますけれども、ウエルネスリゾートパークにかかわる土地取得であります。確かにリゾートに関して潜在需要は引き続き極めて大きなものがあるというのは、まさにそのとおりではないかな、私もその点に関しては異議がないわけなのですけれども、潜在需要が顕在化する条件というのはやはりいろいろなことがあるわけですから、実際の商売は、それが顕在化しなきゃ商売として成り立たない、ビジネスにならないという問題でありますので、よく昔から言う武家の商法といいますか、いわゆるビジネスの世界で生きている人というのは、極めて採算性に対しては敏感な反応といいますか、こういうものを持って当たり前。それに対して、公といいますか、そういう点は鈍感といいますか、なかなかそういうことについてはシビアになり切れないという、こういうことがあろうと思うのです。そういうところからしますと、一斉に最もビジネスに敏感な民間が手を引いてしまうような事態というものは、潜在需要があるということはそうなのだけでも、しかしそれが顕在化する条件というのは果たしてどういうものなのか、極めて難しい局面に今あるのじゃないかなと率直に思うのです。その辺で、この事業を進めるという上では、今後のウエルネスの考え方を全体計画の中で位置づけるというような視点は、もう周りの計画が全部だめになっちゃっているわけですから、やはりここらでもう一度考え直さないと、立ちどまって考え直す必要もあるのじゃないかなと思うのですが、その辺はどうなのかということです。

それともう一つは、ペースダウンが必要じゃないかということに対しては、財政事情、社会経済情勢を勘案しながらということでありましたけれども、

もう一つ、土地の価格がどうなのでしょう。千葉県土地開発公社が先行取得をする。土地というのは値下がりをしていないということをいわば前提としていましたから、先行取得することによって、その間の金利負担を持っても経済性があるのだというふうに思われてきたけれども、実際にその先行取得をした時点から市が買い取ろうとするときには、金利負担もした上に、現実の土地価格はさらに下がっていたとなると、何のために先行取得をしたのだという問題にもなるわけです。したがって、この土地の取得の仕方の問題について、とりあえずの資金がという問題もあろうかと思えますけれども、こういう土地の取得のあり方についてどういうふうにお考えになれるか、お聞かせをいただきたいと思うのです。

議案第27号については、市道路線の問題については了解いたします。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今回の組織制度の見直しに当たりましては、所管事務量のバランスを初めとしまして、組織機構のあり方について多方面から検討したところでございます。環境、公害問題の重要性も十分認識しているところでありまして、現行の組織に比べて決して後退するものではないというふうに認識しております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 豊房牧場の跡地利用に関しまして、当該地域は水源域である、その辺についてどう考えておるのかという御質問でございますが、御指摘のとおりでございます。これらには十分配慮した対応をしていく考えでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） ウェルネスリゾートパーク計画のことについてでございますけれども、今の、現在の社会経済情勢というものもあるわけですが、館山市が今後発展していくためには、どうしてもやはり集客施設といえますか、いわゆる交流人口をふやしていくというのが必須の条件だろう

というふうに我々は考えているわけでございまして、このためにこのウエルネスリゾートパークというのをビーチ利用促進モデル事業等を含めて最大のプロジェクト、地域振興のプロジェクトとして位置づけているわけでございます。特に、このウエルネスリゾートパーク計画については、平成元年度につくった基本構想の中では、スポーツゾーンと、それから健康ゾーン、それからアミューズメントゾーンということになっているわけですが、特にそのスポーツ施設ゾーンについては、昨年の8月、知事にも要請いたしまして、拡充をお願いして、これからまたスポーツ振興にも役立てていきたいということになっているわけでございまして、中核施設として今後進めてまいりたい、こういうふうに考えております。

それから、土地の関係につきましては、今現在非常に安定しているというか、今後の動向についてはわかりませんが、こういうような段階の中で、今やはり基本になるのは土地でございまして、これをなるべく早く上げてこの計画を推進してまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第10号乃至議案第27号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第3、議案第28号乃至議案第32号の各議案を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 補正予算の質疑を行います。

議案第28号、一般会計補正予算についてお尋ねをいたします。議案書の19ページをお開きいただきたいと思います。上水道費、投資及び出資金の中で南房総広域水道企業団出資金3億3,520万円の減額がございますが、これについてお尋ねをいたします。

まず、減額の理由について、議案の説明書では、事業費の変更に伴う減額だとしているわけではありますが、具体的にどのようなことなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、この結果、南房総広域水道企業団への出資高は総額幾らになるのか。これまでの説明では、53億円の出資が見込まれるということでありましたが、その議論の際に、水源負担金については当初計画からの増額はないものと前提をされておりました。しかし、実際は大多喜ダムの建設費は相当増額が考えられるのではないかと思います。だとすれば、ますます市の出資金は今後増額になるのではないかと見込まれるわけではありますが、今後のこれらの負担について、どのようになるものと予定をされておられるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、館山市財政の上で、市の借金である市債が急速にふえているのが最近の特徴であります。この4年間を見ましても、約5割以上も市債残高がふえているかと思うのであります。異常事態とも言えるかと思うのであります。その主要な要因は南房総広域水道への出資債であります。これは今後の財政運営上、深刻な影響を及ぼすものではないかと思うのでありますが、どのようにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、館山市営水道で見た場合、平成5年度の日平均給水量は1万1,214トンでありました。そこに平成8年の夏には日量1万2,000トンの水が送水されてくる予定であるとのことではありますが、こうした膨大な量の水に対して、実際の需要は、館野、九重などの未給水地域における給水などによる増

や、あるいは公共下水道の供用開始に伴う増などが見込めるもののほか、今後急速な水需要の増大は当面見込めないのではないかと考えるのでありますが、この見通しについてどのようにお考えになっているか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、九重の宝貝等に計画されております館山工業団地については、どの程度の水の需要があるものと見て計画をされているのか。県企業庁が行う事業ではありますが、それらの予定量に見合う開発負担金を負担してもいいのではないかと考えるのでありますが、この件についてはどのようにお考えでありますか。

次に、42ページをお開きいただきたいと思います。議案第31号、下水道事業特別会計補正予算の繰越明許費に関してお尋ねをいたします。いずれも契約上の期限内に工事が完了できないとのことではありますが、その理由について議案の説明書33ページに書かれているわけであります。それによりますと、騒音対策のためであるとか、予想を上回る湧水があったためであるとか、安全対策上工法を変更したためであるとか、いずれも工事施工上の問題によるものと思われるわけであります。本当にやむを得ないものなのかどうか、契約上の期限を延長することになるわけなので、詳しい説明を求めます。

次に、終末処理場建設工事委託料の債務負担行為についてであります。日本下水道事業団へ委託契約した分にかかわる工事だと思うのであります。日本下水道事業団にかかわる談合事件が報道されているわけではありますが、下水道事業団と入札業者がこの談合に関与されていたものとされているわけであります。館山市における下水道工事に当たって、同様の不正行為があった場合、市はどのようにそれをチェックできますか、その保証はありますか、いかがですか。

次に、今回3件の繰越明許が計上されておりますが、それぞれの施工業者名をお聞かせいただきたいと思います。

次に、それぞれの工事について、入札の参加業者名、入札の経過について御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、議案第28号に關します南房総広域水道企業団出資金についての第1点目、減額の理由についての御質問でございますが、南房総広域水道企業団の国庫補助金の採択率が低いため、今年度の事業量が減になったことによるものでございます。

第2点目、出資高の総額についての御質問でございますが、南房総広域水道企業団が平成5年度に事業費の見直しを行った後の平成2年度から平成9年度までの館山市の出資金は約53億100万円でございます。また、今後の予定でございますが、水源費の増額が見込まれております。

次に、第3点目、多額の出資金が今後の財政運営に影響を及ぼすかとの御質問でございますが、南房総広域水道企業団によります水道用水供給事業は、館山市といたしましても、渇水対策及び未給水地区解消、これらのため、抜本的対策として早期実現を目指しているところでございます。この出資金につきましては、全額市債を財源としているため、市債残高は増加しておりますが、後年度その元利償還金の50%が交付税措置されるものでございます。今後とも財政運営に当たりましては、公債費比率、起債制限比率、この動向に十分配慮しつつ、健全な財政運営に努めてまいります。

次に、第4点目、給水量の予測についての御質問でございますが、長期的観点に立ち推計しておりまして、現在進めております未給水地域への給水、下水道の普及など生活様式の向上、新たな地域開発などにより、需要は増加していくものと考えております。

なお、未給水地域、館野、九重地区の生活用水の給水は、平成12年度に1日最大約960立方メートルを見込んでおります。

第5点目、館山工業団地の水需要に關します御質問でございますが、1日当たり約1,700立方メートルを見込んでおります。

次に、議案第31号に關します、下水道事業特別会計補正予算についての第1点目、説明書ではいずれも工事施工上の問題によるものと思われるとの御

質問でございますが、今回の繰越明許に係る工事につきましては、工事に着手した結果、当初予想していた以上の湧水や騒音が確認され、これらによる周辺地域への影響を最小限にするため、施工方法の見直しや施工時間を短縮したことにより、工事期間の延長が必要となったものでございます。

第2点目、下水道事業団と施工業者に対します市のチェックについての御質問でございますが、日本下水道事業団は建設大臣の監督下のもとで業務を実施しておりますので、管理監督が図られていると考えております。

第3点目、施工業者についての御質問でございますが、鏡ヶ浦クリーンセンターにつきましては日産・日本鋼管工事建設共同企業体で、中部污水幹線管渠につきましては三菱建設株式会社で、枝線管渠につきましては株式会社岡部建設及び島田土木株式会社により、それぞれ施工されております。

次に、第4点目、入札参加業者についての御質問でございますが、これにつきましては建設部長から御答弁申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） お答えいたします。

第4点目、それぞれ入札参加業者は何社か、その業者名と入札経過の説明を求めるという御質問でございますが、鏡ヶ浦クリーンセンターにつきましては、事業団により、日産・日本鋼管工事建設共同企業体と契約を行い、中部污水幹線管渠につきましては、千葉県下水道公社により、大木建設株式会社、坂田建設株式会社、清水建設株式会社、株式会社竹中土木、大豊建設株式会社、東洋建設株式会社、戸田建設株式会社、日本鋼管工事株式会社、三井建設株式会社、三菱建設株式会社、以上10社により実施したものでございます。指名競争入札を実施したものでございます。また、公共下水道枝管管渠布設工事第6の2工区につきましては、有限会社サンエス工業、荒井建設株式会社、白幡興業株式会社、島田土木株式会社、株式会社山崎工務店、株式会社石井興業、本多建設株式会社、株式会社岡部建設、以上8社により指名競争入札で実施をいたしております。公共下水道枝管管渠布設工事第6の3工区につきましては、株式会社山崎工務店、有限会社サンエス工業、株式会社功紀建設、株式会社タテカン、荒井建設株式会社、株式会社石井興業、



白幡興業株式会社、島田土木株式会社、以上8社により指名競争入札を実施してございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 1つは、水源費の負担の増が見込まれますよということで、企業団の、そうすると、具体的な金額はまだこれからなのでしょうけれども、当初では約200億—198億ですか、この水源費負担がありますよということであったわけで、これが今後伸びるとすると、館山市の負担は53億円ではとどまらないということになるろうかと思うのです。非常にゆゆしき問題だと私は思うのですが、この水源費の中を見ますと、水資源公団からの送水管の設置費用、あるいは大多喜ダムの建設費用ということがあろうかと思うのです。それで、とりあえず平成8年度には約5万トンですか、送水を始める、一部通水ということで始まるわけですから、そうなりますと、大多喜ダムは当面なくても、かなりの送水は可能だというふうに思われるわけです。そうすると、大多喜ダムの建設というものは、水の需要の伸びで考えれば、当面そんなに急ぐ必要はないものではないかと思われるのです。そういう点から、今の計画の中で全体の見直しを進めて、財政負担が今後どんどんふえてしまうというところから、当初の計画から見ると、この財政負担は既に200億ふえているわけですから、さらにまた100億だ、200億だ、ふえるということになりますと、これは大変な問題でありますから、できる限りそれを抑えていくという基調で見直しを進める必要があるのではないかなと思うのですが、その辺はいかがお考えになられるか。

それともう一つは、水の今後の需要増が見込めますよという需要増の内容について確認をしておきたいのでありますけれども、館野、九重で960立方メートル、960トンの増が見込める。約1,000トンと言ったらいかなと思うのですが、それから工業団地で1,700立方メートル、1,700トン、こういう見込みだということでありまして、生活の高度化に伴い、水の量がだんだんふえてくるのだというお話だったのですけれども、実際に平成5年度の市営水道で見た場合、水の使用量は逆に、給水加入戸数はふえているに

もかわらず — 数はわずかです — 実際には減っているじゃありませんか。6年度は大変な異常渇水だったですから、ちょっと同列に論じるのは無理な面もあるかと思うのですが、異常渇水ですから、増ということはまずないのじゃないかなと思うのですが、平成5年度の数字は既に確定した数字でありますから、むしろ減っているわけです。そしてまた、当初見込んだ人口の増、これも減っているわけです。こういうことを考えると、将来的にやはり需要の増は自然増みたいな形で、生活程度の向上に伴ってというような言い方はどうもよくはつきりしない。単純にふえるというふうな見込みを立てるのはいかなものかと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

それから、既に館野、九重地区では配水管の布設工事がどんどん進められ、それに給水装置を接続するという工事が進んでいるわけです。そういう中で、水道の加入者負担金という形で、住民の中でどんどん今水道の布設が進んでいるわけですが、1,700トンも水を送られてくる九重の企業庁の工業団地、200ミリの大きなのが寶貝からどんと行っているわけです。1,700トンを送水できる予定ですよということなのですから、これについては、それに見合う加入者負担金といいますか、こういうものは何らかの形であるものかどうか、これは企業が張りついた時点でそうしたものが考えられるのか、そうじゃなくて、企業庁から1,700トン欲しいよと言われているのだから、企業庁で負担をしてくれるというふうに見ていいものかどうか、そこらを御説明いただきたいと思うのです。

次に、下水道の関係でありますけれども、日本下水道事業団は建設大臣の指導監督下にあるから安心だというわけにはいかないのです、今の事態は。それが一番危ない。建設大臣の監督下にあるというところに今地検の捜索が入ったわけです。こういうような事態でありますから、そのんびり構えていけないと思うのです。そうすると、市でそれをチェックしていくということがやっぱりどうしても求められるのではないかなと思うのですが、まずこの日本下水道事業団が行う事業の公開性といいますか、透明性の確保、これをやはりしなきゃいけないという問題があります。さっきいろいろ各企業の入札の状況についての御説明をいただいたわけですが、日本下

水道事業団の事業については具体的に ― 市が委託をしているわけですが、市が直接発注するということでない関係で、結果的には入札した業者名はもちろん報告があるでしょうけれども、入札の経過、これはきちんと報告されていないのじゃないか。住民から見て、日本下水道事業団がどのような入札の経過で業者を決めたのか。これはだれでも閲覧できる ― 市が行う工事についてはだれでも閲覧できるようになっています。入札の透明性を高めるということで、だれが、どういう会社が幾ら入れたということも含めて入札の経過がわかるようになっているわけです。だけれども、日本下水道事業団に委託をし、日本下水道事業団が入札をしたものについては、そういう意味での透明性というのは確保されていないのじゃないか。そういうことがあればこそ、住民からこの問題のチェックといいますか、市の立場からのチェックがあいまいなのじゃないか、こういう意見が出てきて当然だろうと思うのです。市ではこうした入札の経過についてすべて報告を求め、それを公開するということは必要なことなのじゃないかと思うのですが、この点についていかがお考えですか。

◎議長（辻田 実君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域水道に関連いたしまして、水源費で大多喜ダム等の御質問でございますが、水源費につきましては ― 水源費は大多喜ダム、それから房総導水路、南房総導水路に係る費用でございますが、導水路につきましては、2つの導水路のうち、房総導水路につきましてはことの夏ごろ精算されるだろうということで、その額がちょっとわからないのですが、出てくるだろうということで、それから南房総導水路については平成7年度中に説明があるだろうという状況でございます。質問の1番の大多喜ダムでございますが、確かに大多喜ダムは当初の予定よりおくれておりまして、大多喜ダムができるまでは南房総導水路と管をつないで大多喜浄水場へ持っていきこうという中でやっているわけです。そういうことでございますが、大多喜ダムの必要性ということになりますと、長柄ダムからの水量、それと大多喜ダムからの水量、これらを両方合わせまして計画しているところでございまして、特に利根川と房総地方の天候等の差等もございしますので、

夏等には大多喜ダムにやはり貯留しておかないと、安房、夷隅、この南房総の関連事業体は夏に苦勞しておりますので、大多喜ダムも必要性があるのじゃないか、こういうふうに考えております。

次に、水の需要に関してでございますが、御指摘のとおり、平成5年度、前年度より多少配水量等が減っております。5年度は特に夏が長雨、冷夏であったという原因が一番大きいのではないかと考えておりまして、過去10年ぐらいさかのぼってみましても、年に2.5%から3%程度は水の需要がふえておりまして、平成5年度の冷夏、それから今年度夏の渇水ということで、年々差はあるわけですが、自然増は見込まれるのじゃないかと思えます。また、最終的な水の需要でございますが、確かに南房総から水が通水される平成8年におきましては、予想よりあるいは多少少な目になるかもわかりませんが、長期的なものでございまして、後で変えるとか、そういうことは困難でございますので、現在の計画で進んでいきたいと考えております。

最後に、加入者負担金の関係でございますが、拡張工事を行っておりますとき、私の方がちょうどしておりますのは、本管からの給水装置の費用と、それから加入者分担金と申しまして、メーターの口径によりましていただいている状況でございます。企業庁の関係につきましては、やはり加入者分担金はメーターの口径によって各事業者からいただくことになると考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 館山工業団地に關します水道の開発負担金の御質問でございますが、特に企業庁に対します負担金というようなことでございますが、この件に關しましては、過去企業庁と話をしたという経緯はございません。今後全体的な検討の中で議論をしていく問題と、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 1点目のチェックの關係でございますが、館山

市が事業団に対しまして委託をいたしますと、まず年度当初に国庫補助金の内示というのが参ります。それで、それが参りますと、2カ年継続事業で行う場合には、全体設計のものについて千葉県と建設省の審査を受けます。それで承認がされますと、年度別の協定を結ぶ。それから国庫補助申請になるわけなのですが、やはりその国庫補助金の申請の際にも当然千葉県のチェックがなされます。最終的には事業団の検査でございますが、事業団が検査をいたし、さらに千葉県の検査もございます。最後はやはり国の検査機関でございます会計検査院の検査を受けるという状況でございます。

それと、もう一点の入札経過の関係でございますが、これにつきましては、館山の自治体だけでなく、いろんな自治体が、1,000カ所ぐらいの自治体がこのような事業団にお願いしてございますので、県を通じまして申し入れてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 南房総広域水道企業団の問題ですけれども、これは市長さんが議員という立場で企業団に参加をしておられるかと思うので、率直に言っても大変な財政負担——館山市だけでなく、安房、夷隅、いずれも財政力の大変弱い市町村で、水が来るのはいいけれども、この水の財政負担で沈没しちゃうという意見もちょっと耳にするとところなのです。この水の問題で、財政負担をいかに軽くしていくかというものが大きな問題だというふうに言われているわけです。そこで、事業の不要不急というもののできる限り削るのだということがあろうかと思うのです。大多喜ダムもそれはそれなりに必要性はあろうかと思うのですが、しかし急ぐ必要はあるのかなというのが率直なところなのです。現実にはすぐに7万トンの水を送らなきゃいけないというような状況は、かなり長期的に見て、ここ数年の間にどうだという問題ではないのではないか。中長期的に見て、水の今の需要の状況からいっても、そんなに焦る必要のないものではないか。既に5万トンからの水が大多喜ダムがなくても実際に送水されるというふうに理解しておりますので、だとすれば、もう少しこの事業については先延ばしをしてもいいのでは

ないかなというふうな気がするのです。その辺で、そういう水源費の負担軽減という問題についてどういうふうにお考えになられるか、お聞かせをいただきたいと思うのです。

それから、できる限り開発負担金ということで、出資金の相当分については大口の事業者には開発負担金という形で負担をしてもらって、それをできる限り早い時期に回収するというのがやはりこの財政負担を軽減する上でも極めて重要な問題になろうかと思うのです。そういう点で、企業庁とこれまでこういう問題では相談したことがないということでもありますけれども、相談したことがないというだけじゃなくて、相談しないのかどうか、今後そういう問題を含めて企業庁との間で協議をするというふうに理解をしていいのかどうか、お聞かせをいただきたい。

私どもは、南房総広域水道企業団における水源費、これは本来17市町村の財政力の弱いところの負担とすべきではなくて、この水源費については水資源公団あるいは県、国、こういうところで本来負担するのがいいのではないかと、またそういうふうにするべきじゃないかなというふうな意見を持っておりますけれども、現実には現実として進んでおりますので、そういう中で、大多喜ダムの問題ということで御意見をお聞かせいただきたいと思います。

それから、下水道の方です。館山市は50億円で日本下水道事業団と委託契約を結んで、そのうち電気事業にかかわるものが12億というふうにこの間御答弁で伺っているわけですが、現在電気9社が告発されまして、そして地検が捜索をしているというようなことで、これは電気事業ということでもありますけれども、93年の6月に――ドラフト会議と言うのだそうですけれども、そこでどこがどう決めるかという通称ドラフト会議が開かれて決めたのだ、それが今度の捜索の理由になっているようであります。93年の6月のドラフト会議だから、94年度分、95年度分、割り当てを決めたりした議論をしたのかなというような問題だと、あるいは館山市のこの下水道事業がドラフト会議の議題にのったのか。全国のやつを全部割り振りを決めるということでもありますから、そういうことでもありますから、そういうことだとしますとゆゆしきことだ。まだ館山のはのっていないのかなという気がするのです。

けれども、問題はそういうことだと思うのです。

したがって、この入札の経過のやはり透明性という問題が今後大きな問題になるし、これは県を通じて云々というようなことでありますけれども、直ちに下水道事業団に、どういう経過で入札がされたのか、入札に参加した業者名、そして第1回の札はどういう結果だったのか、入札の入れた数字、その報告を求めて当たり前じゃないですか。市ではそれをみんなに公表しているでしょう。市が公開をしているその水準までこれはすぐにすべきだ。非常に公共的な事業で、しかも金額が大きい、社会的影響の大きなものですから、これは県にお伺いを立てなきゃできないという問題じゃなくて、市で直ちにそれを求めて当たり前じゃないかと思うのですけれども、日本下水道事業団に対してその点についてどうなのかというふうに申し入れをするお考えはないのでしょうか。皆さん非常にこの問題については疑惑を持って、館山のこのやつも入っているのかなんていう話が、率直な問題として意見も出てくるような状況です。お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域水道にかかわる出資金が多額で、構成市町村に財政的影響を与えるということで、確かに多額の出資金を各市町村支払っているわけございまして、平成5年度の増額に対しましても、17市町村長一致団結して県にお願いして、補助を引き出したところでございまして、そういう中で、大多喜ダムの時期をおくらせたらよいのではないかとこの御意見でございしますが、大多喜ダムにつきましては、南房総独自の水利利用でございまして、多目的ダムのうちの一部を水道水として利用ということでございしますので、その県の事業にぜひ乗って大多喜ダムの水源を確保したいということで進んでいるところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 水道の開発負担金のいわゆる企業庁に対してどうかというふうな御質問でございしますが、御質問にもございましたように、企業庁は民間のデベロッパーとは違うというような一面もございます。

いずれにいたしましても、この開発負担金の議論が進む中でいろいろと検討してまいりたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 神田議員の御趣旨のように、申し入れていきたいと思っております。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第28号乃至議案第32号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議長の報告

◎議長（辻田 実君） なお、この際申し上げます。

2月27日の議会運営委員会開催までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

#### 延 会 午前11時03分

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明10日から12日まで議案調査のため休会、次会は3月13日午前10時



開会とし、その議事は平成7年度各会計予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第9号乃至議案第32号

